

柳原銀行記念資料館

京都駅から鴨川の方に向けて歩いて、地図を片手に「柳原銀行記念資料館」を探した。地図では高瀬川の曲がったあたりだが、どうも通り過ぎたようだ。次にレポート予定の「都市改造」が影響して、この一帯はかなり変化している。郵便局に入って、資料館の方向を聞き、やっとのことで、訪ねることができた。

写真は資料館入口である。どこかで見た記憶のある建物と雰囲気だ。わが「青春の母校」、信州大学人文学部、旧制「松本高校」の校舎に似ている。



このキャンパスは今「あがたの森」公園として、市民に親しまれている。

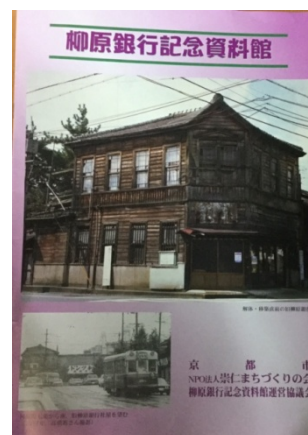
資料館について書きたいことは多いが、とりあえず京都市人権文化推進課発行の冊子から、「柳原銀行と柳原銀行記念資料館」を紹介しておく。

「柳原銀行は、柳原町（現在の崇仁地区）の二代目町長であった明石民蔵をはじめとする地元の有志によって、1899（明治32）年に同和地区内に認可、設立された銀行であり、地元産業の振興や教育の向上に多大な貢献をしました。大正期には、山城銀行と改称し、営業を拡大しましたが、金融恐慌の影響を受け、1927（昭和2）年に倒産し、その後、建物は、商店や借家として使用されました。

当時、建物は、河原町塩小路の南西角に位置していましたが、1986（昭和61）年の国道24号線の拡幅工事に伴って、建物の取り壊し案が出されました。これを契機に地元では、建物をまちづくりのシンボルにしようとする保存運動が盛り上がり、「保存に関するシンポジウム」の開催や「柳原銀行とその時代」の発刊等、様々な取組が行われました。また、1989（平成元）年に、京都市が実施した建物調査において、柳原銀行は、設計密度の高い明治後期の洋風木造建築物であることが判明し、1994（平成6）年には、京都市登録有形文化財となりました。

このような建物保存に対する地元の熱意と京都市の取組があいまって、1994（平成6）年から、京都市は、建物の移築、復元、保存事業に着手しました。そして、1997（平成9）年11月28日から、柳原銀行は「柳原銀行記念資料館」として開館しました。

現在、当施設は建物内に展示室を設け、同和問題に関する歴史、文化や生活資料等の展示を通して、広く市民に対し同和問題への正しい理解と人権意識の普及・高揚を図る啓発施設として多くの皆さんに親しまれています。」



（2017年7月19日）